

学校図書館支援センター通信 156号



令和3年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

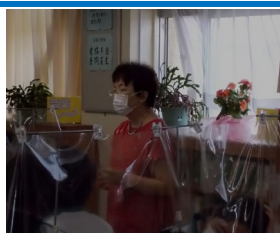
第三中学校 第3学年国語科の実践

世界の子供たち ～1枚の写真にメッセージを込めて～

第三中学校の第3学年で行われた国語科の実践を紹介します。

今回行った「世界の子供たち～1枚の写真にメッセージを込めて～」という学習は、「生徒たちに世界の子供たちの実情を知ってもらい、現在の自分の在り方やこれからの生き方について考えを深めてほしい」という授業者である五十嵐ふみ代先生の思いが込められています。また、今回の単元目標は、国語科学習指導要領のB(1)ウ「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること」、知識及び技能(2)「具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること」であり、情報活用能力の育成につながる学びとなっています。

写真集から自分の心に印象深く残った一枚を選択し、写真から読み取ったことをまとめる学習を参観してきました。「水汲みの仕事をする子」「地雷の影響により義足になってしまった子」「道路に眠る子」などの写真から、それぞれの国の子供たちが置かれている状況が伝わり、世界を知るきっかけとなっていました。写真が持つ力に生徒たちも惹きつけられ、じっくりと写真集を見ていました。小学生ぐらいの子が農業の仕事を手伝っている写真を選んだ生徒は、「子供が仕事をしているということは、子供が仕事をしなくてはいけない環境があるのかな。」と思ったそうです。写真から読み取れることをまとめながら、疑問に思ったことを次の時間に調べていきます。そして、写真集や「世界国勢図絵」等から収集した情報をもとに、写真の主人公になりきって作文にまとめ、報告会を行います。今回の学習は、2学期に実践予定のSDGsの学習へつなげていくそうです。また、今回は国語科の学習で行いましたが、ねらいや単元構成を変えることで、社会科や総合的な学習の時間でも行うことができる題材だと思いました。



【学習の流れ】

- 1 単元のねらいや進め方など学習の見通しをもつ。教師の選んだ写真と「なりきり作文」のモデル文を紹介する。
- 2 写真集を見て、自分の心に印象深く残った一枚を選ぶ。
- 3 写真から読み取れることをまとめる。
- 4 写真からは読み取れない情報（識字率、乳児死亡率など）を図書資料から収集する。
- 5 写真から読み取れたこと、収集した情報をもとに「なりきり作文」を書く。
- 6 報告会を開く。



クラスごとに色分けした付箋を使うことで、学年で図書資料を共有することができます。

今回は、図書資料を3種類集めました。

- ① 20年くらい前までに出版された写真集
- ② 世界の子供たちの現状に関して記載してある図書（絵本を含む）
- ③ 「世界国勢図絵」・・・世界のデータが記載されている図書

図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

校内で古いテレビが廃棄になると知り、図書室に1台いただくことができました。コロナ禍の中、以前のように子どもたちがぎゅっと集まる形での読み聞かせは難しくなりましたが、ICT機器等も活用することで子どもたちがわくわくしながら本の世界と向き合えることには変わりなく、今しかない本との出会いが損なわれないよう日々模索しながら取り組んでいます。

また、6月の読書週間では図書委員によるペープサートの発表を全学級Zoom配信で行いました。どんな時代でもどんな状況でも子どもたちは目をきらきらさせて本の世界を楽しみます。子どもたちにとってかけがえのない読書体験を精一杯広げ、深めていけるように校内全体で考え実践しています。

【市川市立稲荷木小学校 学校司書 西澤 英子】



学校司書合同研修会

学校図書館の機能を生かした利用を促進する環境整備



6月24日（木）、聖学院大学非常勤講師 小川三和子先生を講師にお招きして、ZOOMを活用したオンラインにて学校司書合同研修会を行いました。今回の研修会のテーマは、「学校図書館の機能を生かした利用を促進する環境整備」です。研修会で教えていただいた内容をご紹介します。

研修会の冒頭で、学校図書館法第2条に示されている「学校図書館の2つの目的と3つの機能」についてのお話がありました。2つの目的とは、「学校の教育課程の展開に寄与すること」「児童又は生徒の健全な教養を育成すること」です。また、3つの機能とは、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を学校図書館は持つということです。学校図書館を運営するにあたり、これらの2つの目的と3つの機能を念頭に置いた上で、現状に合わせた工夫を図りながら進めていくことが重要であることを教えていただきました。

学校図書館の図書資料は、日本十進分類法（分類番号）の順番に、左から右へ並んでいます。図書資料の内容に合わせて分類番号は決まっており、図書資料の背の部分に3桁表示のラベルが貼られています。生涯学習の視点からも、日本十進分類法による配架は意味があり、小学校、中学校、高等学校、大学、公共図書館等、どこの図書館でも同じように本を探すことができる利点があります。また、蔵書についても、「子供たちが使える本であるか？」という視点で定期的に見直していくことも必要だという話がありました。そして、「理科の学習で活用するために、4類の自然科学の資料を多めに購入しよう。」など、時には学校として重点を決めて購入していくことも一つの方法だそうです。

「活字を読むことが苦手」と感じている大学生も存在し、子供たちのためにも読書指導の充実は必要不可欠です。「読み聞かせをたくさんしてもらった子は本が好き」という傾向があります。また、朝読書の時間や国語科の学習などで、活字を読む時間の確保や本との出会いの場を作るとは、活字に慣れるという観点からも大変効果があります。国が進めているGIGAスクール構想のリーフレットの中に、「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」という記載があります。今後は、ICT機器を含めた学校図書館を考えていながら、今まで積み重ねてきた学校図書館活用のよさとICT活用のバランスを考えながら、読解力や情報活用能力の育成に向けて取り組んでいければと思います。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

